

2019年6月12日

Cell Innovation Partners Limited

変形性膝関節症の進行抑制効果が期待される細胞外マトリックスをターゲットとした新しい高分子医薬品を開発する米国の創薬ベンチャー「Symic Holdings, LLC」への投資を実行

Cell Innovation Partners Limited(以下、「CIP」)は、変形性膝関節症の進行抑制効果が期待される細胞外マトリックスをターゲットとした新しい高分子医薬品の開発を行う Symic Holdings, LLC(以下、「当社」、本社:エメリービル、カリフォルニア州、米国、CEO:Ken Horne)へ1百万ドル(約1.1億円)の投資を行いました。

当社は、細胞外マトリックスに着目した新しいタイプの医薬品を開発している創薬ベンチャーであり、細胞外マトリックスに結合するペプチドとグリカンを結合させた高分子化合物「Symic Biomolecule」を創出するプラットフォーム技術を持ち、ペプチドとグリカンの種類を変えることで様々な種類の Symic Biomolecule を作成することができます。

このプラットフォーム技術を用いて開発された「SB-061」は変形性膝関節症の進行抑制効果が期待されており、すでに欧州で Phase 2a を完了し、2019 年後半に米国・欧州で Phase 2b を開始する予定です。

健康な人の膝では、膝関節でクッションの役割を果たす膝軟骨が膝関節の働きで重要な役割を果たしています。変形性膝関節症では、慢性的な炎症によって膝軟骨がすり減り、それが進行すると膝軟骨が構造的に変形し、それによって痛みが発生し、最終的に人工膝関節の手術が必要になります。米国での患者数は約 2,700 万人と推計されており、高齢化の進行により患者数は今後さらに増加すると予測されていますが、現在は鎮痛剤による対処療法しか存在せず、変形性膝関節症の膝軟骨の変形を治療する方法はありません。

当社が開発中の SB-061 は、鎮痛効果と膝軟骨の損傷進行抑制効果の 2 つの作用機序を持つことが特色です。細胞外マトリックスが損傷すると放出される炎症を促進する断片に結合することで炎症を抑制し、炎症による膝の痛みを抑えるとともに、膝軟骨の損傷進行を抑制し、人工膝関節手術の必要性を減らす効果が期待されています。

上記以外の疾患への応用として、当社の 2 号パイプライン「SB-030」は、自家・静脈移植後の血管再狭窄を防ぎ自家・静脈移植の成功率を向上させる効果が期待されており、すでにオーストラリアで Phase 1/2a を完了し、2020 年に米国で Phase 3 を開始する予定です。

CIP では、当社に対し、日本での事業パートナー開拓など事業開発支援を通じて成長を支援するとともに、引き続き再生医療ベンチャーへの資金供給を行うことによって、再生医療の実用化に貢献してまいります。

Symic Bio, Inc.の概要:

設立: 2012年
事業内容: 高分子医薬品の開発
本社所在地: エメリービル、カリフォルニア州、米国
CEO: Ken Horne
URL: <http://www.symic.bio>

Symic Bio の変形性膝関節症を対象とした Phase 2a 治験計画概要:

URL: <https://clinicaltrials.gov/ct2/show/study/NCT03231280?term=Symic+OA&rank=2>

問い合わせ先:

Cell Innovation Partners Limited 担当 西村 和将
メール: contact@cell-ip.com
URL: <http://www.cell-ip.com/>